

共同研究プロジェクト紹介 日本語教育研究・ 情報センターの共同研究プロジェクト

著者	迫田 久美子
雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
巻	3
号	3
ページ	105-106
発行年	2013-03
URL	http://doi.org/10.15084/00000713

日本語教育研究・情報センターの共同研究プロジェクト

Collaborative Research Projects in the Center for JSL Research and Information

迫田 久美子 (SAKODA Kumiko)

日本語教育研究・情報センターでは、第二言語（外国語）としての日本語の教育・学習をとりまく様々な今日的課題に対して、国内外の日本語教育に関する研究情報を収集するとともに、学習者の日本語コミュニケーションに関する実証的研究を行っている。

センターの共同研究プロジェクトには以下のようなものがある。

基幹型共同研究プロジェクト〈略称〉（プロジェクトリーダー）

多文化共生社会における日本語教育研究（迫田久美子，教授）

「多文化共生社会」とは、「異なる言語的・文化的背景を持つ人びとが、自分及び他者の背景を互いに尊重し合い、対等な関係を築こうとしながら生きていくことのできる社会」を指す。このプロジェクトには、次の5つのサブプロジェクトがある。

- ・学習者の言語環境と日本語の習得過程に関する研究〈言語習得〉（迫田久美子，教授）
- ・コミュニケーションのための言語と教育の研究〈コミュニケーション〉（野田尚史，教授）
- ・社会における相互行為としての「評価」研究〈評価研究〉（宇佐美洋，准教授）
- ・日本語の基本語彙に関する研究〈基本語彙〉（島村直己，上級研究員）
- ・「生活のための日本語」の内容に関する研究〈生活日本語〉（金田智子，学習院大学教授）

独創・発展型共同研究プロジェクト〈略称〉（プロジェクトリーダー）

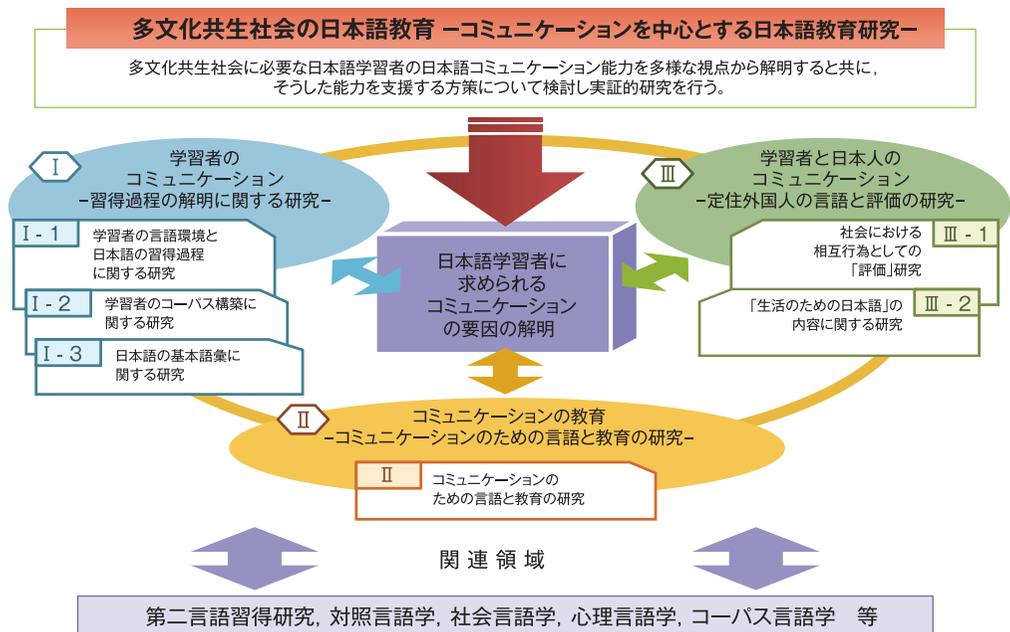
- ・定住外国人の日本語習得と言語生活の実態に関する学際的研究〈WisenLSW〉（野山広，准教授）
- ・日本語学習者用基本動詞用法ハンドブックの作成〈基本動詞ハンドブック〉（プラシャント・バルデシ，教授）

領域指定型共同研究プロジェクト〈略称〉（プロジェクトリーダー）

- ・学習者コーパスから見た日本語習得の難易度に基づく語彙・文法シラバスの構築〈語彙文法シラバス〉（山内博之，実践女子大学教授）
- ・日本語を母語あるいは第二言語とする者による相互行為に関する総合的研究〈日本語相

互行為) (柳町智治, 北星学園大学教授)

このうち、〈言語習得〉、〈コミュニケーション〉、〈WisEnLSW〉、〈日本語相互行為〉では日本語学習者の言語接触場面での実態調査に基づく研究を、〈生活日本語〉、〈基本語彙〉、〈基本動詞ハンドブック〉〈語彙文法シラバス〉では、さらに教育場面にふみこんだシラバス作成や教材作りの研究、〈評価研究〉では相互評価という新たな視点での評価に関する研究を行っている。



この号では、「基幹型プロジェクト」のサブプロジェクトについて、それぞれのリーダーがその内容を紹介します。

(日本語教育研究・情報センター長)